

情報連絡員だより

－平成 28 年 11 月分の報告より－

足踏み状態が続き、明るい兆しは見えぬ

業種 / 景況天気図		概況
全	体	 総じて売上は引き続き低迷しており、業界全体の落ち込み、一部では廃業が増す状況も窺える。更に、米大統領選に伴う円安基調やOPECの減産合意等、依然として厳しい環境が中小企業を取り巻いている。
製 造 業	食料品	 菓子は七五三向け商品以外は低調に推移し、売上高並びに収益が悪化。製麺はコンビニ等におけるカップ麺の売上増加等の影響で乾麺・生麺ともに荷動きが低調。酒造は一部品種で人気となり在庫切れが散見。
	繊維・同製品	 桐生織物は婦人服地については梅春物が低調となり、和装織物は販売会・展示会を開催するも成果はいまひとつ。繊維製品は組合全体の受注低迷が続く。レースは技術活用に向け、企業間のネットワーク強化に期待。
	窯業・土石製品	 生コンは県央地域を除いて厳しい状況が続く。コンクリートブロックは戸建住宅の着工件数減少の影響で出荷量は低調。コンクリート製品は年度末に向け出荷が開始される中、今後の受注の先細りを懸念。
	機械・金属	 米国大統領選等の影響で円安基調となるも、中小企業は原材料等の値上がりを危惧。また、富士重工を中心に自動車関連が好調な反面、中国景気の低迷の影響もあり、下請企業からは利益なき繁忙との声も聞かれる。
	その他の製造業	 木材は原木不足で流通量が減少する中で、依然販売単価上昇を見込めず。紙加工品は原材料価格が軟化傾向であるが、古紙価格の上昇を懸念。印刷は全体的には売上増加も、各企業とも新規顧客の獲得に苦慮している。
非 製 造 業	卸売業	 高崎の食品卸は秋の天候不順の影響で野菜の入手難が続き苦戦。太田の繊維・衣服卸は雇用人員の増加でユニフォーム類の売上が上昇傾向。水産物卸は円安基調で仕入価格が上昇しており、今後の価格転嫁を懸念。
	小売業	 燃料小売は季節外れの降雪で灯油需要が増し売上増。一方、OPECの減産合意による原油価格の上昇を危惧。生花小売は県内大手葬儀社が生花持ち込みを禁止し売上激減。商店街はイベント集客が好調も秋冬需要が弱い。
	サービス業	 温泉旅館は悪天候等により各地で入込客数が減少。不動産取引は一部地域で大手建設業者によるアパート乱立が進み、今後、賃料の下落や空室の増加を懸念。建築設計は発注者の期待に沿う成果品の品質確保が課題。
	建設業	 建設工事は一部で下請業者の確保に苦慮する場面が見られる。電気工事は高賃金で仕事量の豊富な都内への転職者が増加し、県内の作業員確保に苦慮。塗装工事は仕事量が落ち着き、職人の施工単価の上昇傾向が一段落。
	運輸業	 荷動き低調が続く中、労働時間規制による高速道路の利用増や、運転者不足を補う人材育成による経費拡大を憂慮。また、OPECの減産合意に伴う燃料価格上昇を懸念。小型運送は医薬品増、什器備品減で昨年並。